



令和7年1月17日

南陽市教育委員会
教育長 堀 裕 一 殿

南陽市小中学校適正配置等検討委員会
委員長 猪 野 忠

南陽市立小中学校適正規模・適正配置等について（答申）

令和6年2月29日付け南教学第2013号で諮問のありました標記のことについて、慎重に検討を重ねた結果、当検討委員会としての意見を添えて下記のとおり答申します。

記

1 小中学校の適正規模・適正配置に関する計画策定に係る基本的な方針

南陽市の子どもたちにとってよりよい学習環境を整え、教育効果を向上させる観点から、小中学校は、それぞれ以下の学級数を確保するよう努めること。

- （1）中学校は、1学年3学級以上、全体で9学級以上とする。
- （2）小学校は、1学年2学級以上、全体で12学級以上とする。

2 計画策定に係る具体的方策について

南陽市小・中学校の再編統合を進める。

- （1）中学校については、「市内1校」を基本として検討すること。その際、生徒数の著しい減少に伴う課題が顕在化している現状を踏まえ、スピード感をもって対応すること。
- （2）小学校については、上記の規模を確保できるよう、保護者や地域の意見を聞きながら、段階的に統合を検討すること。その際、多様な学校の在り方について研究し、計画に反映させること。

3 答申にあたっての委員会としての意見及び要望

この度の答申にあたり、委員15名はそれぞれの立場から意欲的、かつ多面的に論議し、多様な意見や提言がなされた。

答申を取りまとめるにあたって、出来るだけ簡潔でわかりやすく、統一性のあるものを目指したことから、委員の意見すべてを盛り込むことは困難である。

しかしながら、各委員の意見一つ一つが、これからの「南陽市の教育がどうあるべきかについて」の示唆に富んだ内容となっているため、別添の説明資料及び議事録をご覧いただき、本答申に至る経過をご理解いただきたい。

なお、小中学校の再編統合を進めるにあたっては、統合により広がる地域の教育力を最大限に生かした「地域総合型教育」を効果的に機能させ、ふるさとを愛し、高い志をもって自立的に生きる子どもたちが育まれるようにすることを切に願う。